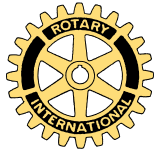


THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



創立 1954年 3月 8日
承認 1954年 3月 30日

例会日時 毎週月曜日
12:30 ~ 13:30
例会場 刈谷市新栄町3の26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL (0566)22-2111
FAX (0566)25-2111
メール kariyarc@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 吉原 孝彦
幹事 出口 達也
会報委員長 佐野 彰彦

2017 ~ 2018年度 国際ロータリー イアン H.S. ライズリー 会長テーマ

ROTARY : MAKING A DIFFERENCE ロータリー : 変化をもたらす

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

第2984回例会プログラム

[当年度=10回目; 当月=4週目]

2017年(平成29年) 9月25日(月)

1. 例会……………〈司会:プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム
12:30 2. 点鐘……………〈会長〉
3. 開会宣言
4. ロータリーソング斉唱……………日も風も星も
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介
6. 食事

- 12:45 7. 会長挨拶並びに会長報告
8. 新入会員挨拶……………市川^{いちかわ}紀^{のりゆき}征^{きよゆき} 会員
……………横山^{よこやま}昌^{まさゆき}幸^{ゆき} 会員

9. 幹事報告
10. 出席報告
11. 委員会報告
12. ニコニコボックス報告
13. 次週並びに次々週のプログラムの予告
(10/2) ……クラブ協議会
ガバナー補佐訪問
(10/9) ……休 会 (法定休日)

- 13:00 14. 本日のプログラム
卓話 「産官学の本音トークによる南海トラフ巨大地震克服への取り組み」
講師 名古屋大学減災連携研究センター
准教授 都築 充雄 様
(紹介者 丹羽 克誌 会員)

15. 謝 辞
16. 点 鐘 ……〈会長〉
17. 閉会宣言
13:30 18. 散 会

出席

会員総数 96名 出席免除 24名
出席義務者+免除者の内例会出席者 86名
欠 席 16名 出席率 81.39%
前々回(9/4)の修正出席率 100%

会長報告

- 1) 9月14日、涼仙ゴルフ倶楽部にて、9月度ゴルフ例会を開催致しました。グロス90ネット71にて大竹憲治会員が優勝されました。

幹事報告

- 1) ワールドフード・ふれ愛フェスタのチケットをメールボックスに配布させていただきます。ご確認お願い致します。
2) 来たる10月2日のガバナー補佐訪問、10月16日ガバナー公式訪問におきましては、ネクタイ着用とさせていただきますので、ご理解をお願い致します。
3) 本日、市川紀征会員、横山昌幸会員が入会されましたので、会員数は96名となりました。市川紀征会員、横山昌幸会員ともに会場委員会の配属となります。
4) 本日例会終了後、事務局にて理事会を開催致します。ご関係者のご出席をお願い致します。

会長あいさつ

東日本大震災後の釜石

吉原 孝彦



先週国土交通省主催のインフラツーリズムを利用して、釜石市の防波堤震災復興現場を視察しました。

東日本大震災で釜石市も大きな被害を受けました。市内でマグニチュード9.0、震度6弱、津波は釜石湾平田漁港付近浸水高9.2m、大

槌湾釜石東中学校附近遡上高15.4m。平成28年3月11日現在死者数993名行方不明者152名。家屋被害全16,182戸のうち4,704戸、事業所被害2,396の内浸水範囲に1,382。漁船は1,734隻の内1,692隻が被災。人口は平成22年39,574名、27年36,802名、29年34,855名と震災に関係なく減少しています。

釜石市による検証で応急対応の問題点は

- ①大津波警報の予想高さの変更が防災行政無線等でうまく伝わらなかった。
- ②停電等により大津波警報及び避難指示を住民が把握できなかった。
- ③避難誘導等に携わった消防署員・消防団員・自主防災組織・民生委員等が被災した。
- ④国や県が想定した津波浸水域に縛られた避難計画の為、大幅に想定を超えた津波に対応できなかった。
- ⑤「家族の様子を見に帰宅する」「せっかく避難したのに、第1波襲来後自宅の様子を見に行く」など、先人の教訓が生かされず、過去の津波と同様に犠牲者を出してしまった。

今釜石市は基本理念に「次世代に誇りうるまちを創ること」基本姿勢に「撓まず屈せず」。平成28年からの基本計画では将来像に「三陸の大地に光り輝き、希望と笑顔があふれるまち釜石」を掲げ、復興に頑張っています。

ちなみに今年度予算は国庫支出金25億4千万、復興交付金131億8千万、震災復興特別交付税51億1千万等合計約253億4千万円となっています。

新入会員紹介

氏名 いちかわ のりゆき 市川 紀征
 生年月日 昭和40年1月17日
 推薦者 杉浦世志朗 会員
 職業分類 証券業
 事業所名 野村證券株式会社
 役職名 支店長
 所属委員会 会場委員会



市川 紀征 会員

氏名 よこやま まさゆき 横山 昌幸
 生年月日 昭和42年11月22日
 推薦者 前田 孝司 会員
 職業分類 証券業
 事業所名 三菱UFJモルガンスタンレー証券株式会社
 役職名 支店長
 所属委員会 会場委員会



横山 昌幸 会員

卓 話

「産官学の本音トークによる南海トラフ巨大地震克服への取り組み」

名古屋大学減災連携研究センター
 准教授 都築 充雄 様



南海トラフ巨大地震などの大規模災害後、地域を支える産業がすばやく立ち上がることは、地域の復興において極めて重要であるが、企業がBCPを検討する時、その視点はもっぱら自らの組織に向いており、自らの手が及ぶ範囲に限定して

対応を計画しているケースがほとんどである。しかしながら、実効性のあるBCPを策定するためには、自社の外側にあり事業を支えているものの実態を知り、その限界や弱点を知ったうえで自らの組織のあり方を検討することが必要となる。

社会の実態を地域で共有する際に重要なことは、「タテマエ」である公式見解では表されない脆弱性や未だ顕在化していない課題であり、その課題が被害という形で出現したときの影響の程度、範囲である。そこで、社会の「ホンネ」の実力をあぶり出すために、議論の内容を公開しないことを前提とし、各機関の実態や課題を明らかにし解決の道筋を共有するための意見交換会「本音の会」を実施してきた。現在、月に1度の会合では、地域内のライフライン・インフラ事業者、地方公共団体、製造業、素材産業、建設業、金融・保険、小売り、コンサルタントなど多岐にわたる70におよぶ企業や団体が参加し、積極的な意見交換が行われている。

多数の参加者による議論、意見交換により、参加企業それぞれの問題・課題にとどまらず、業界や、さらには社会全体に存在する問題も明らかになってきている。また、社会を支えるライフラインやインフラの脆弱性の実

態を知ることによって個社の対策検討をより深く行えるようになった、自社のプロダクトが供給されないことが社会にどのような影響を与えるのかを多数の異なる視点から議論し得た、より俯瞰的にリスクを抽出するきっかけになった、この会合に参加したことで関係を持つこととなった企業との連携が進んだ、といった成果が上がっている。今後はこの「本音の会」の取組の本質を整理して地域社会全体に展開して行きたい。

9 月度刈谷 RC ゴルフ例会

平成29年 9 月14日(木)

於：涼仙ゴルフ倶楽部

成績	氏名	G	H	N
優勝	大竹 憲治	90	19	71
2 位	池田 憲司	105	33	72
3 位	神谷 光義	97	20	77
B B	吉岡 秀記	100	11	89



第 4 回 理 事 会

I 会長挨拶 <会 長>

II 議 題

1. 10月・11月のプログラム（案）について
<クラブ奉仕委員長>
<プログラム委員長>
2. ガバナー公式訪問について
<幹 事>
3. 職場例会について
<職業奉仕委員長>
4. JAZZ LIVE の夕べについて
<幹 事>
5. 「カウントダウン」イベントについて
<幹 事>
6. その他

III 会場監督の所見